

様式 1 〔申し合わせ事項〕 【委員会、全協：共通様式】

令和 6 年 11 月 23 日

東員町議会

議 長 伊藤 治雄 様

総務建設常任委員会

委員長 南部 豊

研 修 報 告 書

研修期間	令和 6 年 11 月 12 日（月）～ 11 月 13 日（火） 【 2 日間】
研修（視察）先	1, 兵庫県丹波篠山市 2, 兵庫県川西市
目的（テーマ等）	1, 「災害時ケアプラン」 2, 空き家対策
資料添付の有無	有 ・ 無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページに記入すること。

〔氏名：南部 豊〕 研修概要、内容、所感

総務建設常任委員会では、防災・減災の課題となっている研修を行った。

1 日目の兵庫県丹波篠山市は、災害時ケアプラン（避難のための個別支援計画。広げよう、誰ひとりとり残さない地域づくりに向けて～）を目標に

訓練を重ねられています。

初めに、向井副議長のあいさつがあり、参加者全員が女性という、今までは、なかった雰囲気の中で研修が始まりました。

災害が起きた際、自ら避難することが困難な高齢者や障がい者など支援を必要とする方への支援体制の構築に取り組んでいる。

- ・避難行動要支援者の把握（災害対策基本法におけるよう配慮者）
- ・避難行動要支援者名簿作成（市町の義務）

平常時および災害時の対応

介護支援専門員の協力

自主防災組織等への名簿情報の提供 同意・不同意の確認

見守り台帳・災害時ケアプランのあらかじめの情報提供

災害時に命を守る

本人・家族、地域の防災への関心を高める。

社会的孤立を防ぐ。人と人がつながる。

見守り台帳（平成 25 年度開始 R2 年度見直し）

登録の目的

- ① 災害時の避難支援
- ② 発災時にできるだけ安全に避難するため、日頃からの見守り支援

登録対象者

- ① 身体障害者手帳 1・2 級、療育手帳 A 判定、精神障害保健福祉手帳 1 級
- ② 介護保険要介護 3・4・5 認定者
- ③ その他支援を必要な方（例 独居・高齢者世帯等で避難支援が必要者）

見守り台帳の配布先

自治会長、民生委員・児童委員

見守り台帳で進める中、色々な課題が見えてくる。課題への前向きな取り組み

所感 防災と福祉の連携 ＋（次にあげる）3 つの要素が不可欠である。

- 1.福祉専門職の理解
- 2.地域住民の理解
- 3.双方をつなぐ人材や関係機関

わが町東員町の自治会運営でも、今は希薄になってしまった関わり合い。

地域住民との関わり合い、行政機関には、この点の再構築を期待したい。

2 日目は、兵庫県川西市に視察研修にお邪魔しました。

テーマ 空き家対策について

まず初めに、岡 留美 議長の歓迎のあいさつから始まり、
都市政策部の福丸主査、住宅政策課の藤田課長から説明を受けた。

川西市は、人口 16 万人 行政区域 53.44 km²

昭和 40 年代 中部や北部に大規模なニュータウンが開発され人口が急増
全国に先駆けて「川西市住宅地造成事業に関する指導要綱」を施行。

協議スタイルは、「川西方式」として全国に広がった。

住宅地造成地タウンとしては、6 ヶ所ありその一つが大和団地。S42 年に
人口 10000 人強の団地で東員町とほぼ同じ規模の団地である。

今回の視察研修では、空き家に対しての課題と問題点。

- ・ 空き家の位置情報などを可視化して管理できていなかった。
 - ・ 発見から解決まで一元的に管理できていなかった。
 - ・ 最新の空き家を把握し続けるには、職員だけではマンパワーが不足。
- 空き家の把握を一過性に終わらせず、データを更新しやすい仕組みが必要。

空き家調査アプリのシステム化の構築

- ・ 市民がスマートフォンのアプリを使って、安易に空き家を調査出来るシステム。調査結果は、直接「データベース (kintoe)」へ送信されるため、データ更新を効率的に行える。
- ・ アプリは誰でも安易に操作可能。アプリと連動させて、効率的なデータベースが構築できるとの判断から、本格稼働を決定。

(令和 3 年度 6 月議会で予算化)

空き家調査アプリ「空き家しらべーたー」。前段で述べたようにクラウドサービスを活用したデータベースで管理。

GPS を利用し、空き家の位置を地図上に表示。

アプリを使って空き家調査を実施したことで、地図に紐付けしたデータベースとして管理できるようになった。短期間で調査を完了させた。

地域の実情に詳しい市民が調査員となったことで、ご近所しか知りえない「空き家を特定するための情報」が取得できた。

令和 3 年度 選定した民間 IT 企業と業務委託契約

今後の展望

東員町の空き家対策として、空き家マッチング制度の本格的導入の早期検討。将来に向けた政策的議論の必要性を実感した研修であった。